

## 短報

### 群馬県におけるシメの繁殖期の観察記録

石塚 徹<sup>1</sup>・深井宣男<sup>2\*</sup>

<sup>1</sup>万座しぜん情報館 : 〒377-1528 群馬県吾妻郡嬭恋村干俣2401 万座温泉

<sup>2</sup>日本野鳥の会群馬 : 〒370-0046 群馬県高崎市江木町980 新井ビル2F

\* (jotaka5b78159n@gmail.com)

キーワード : シメ, 繁殖期, 幼羽, 群馬県

### Observation Record of the Hawfinch during the breeding season in Gunma Prefecture

ISHIZUKA Toru<sup>1</sup> and FUKAI Norio<sup>2\*</sup>

<sup>1</sup>Manza Nature Center: 2401 Hoshimata, Tsumagoi, Agatsuma, Gunma 377-1528, Japan

<sup>2</sup>Gunma Branch of Wild Bird Society of Japan: Arai Building 2nd floor, 980 Egi, Takasaki, Gunma 370-0046, Japan

\* (jotaka5b78159n@gmail.com)

**Abstract:** The Hawfinch *Coccothraustes coccothraustes* is considered as a winter visitor to Gunma Prefecture same as south Japan. 10 or more Hawfinch including four juveniles were observed on 7th August 2021 in Tsumagoi. This is the first record of the Hawfinch during the breeding season in Gunma Prefecture.

**Key Words:** Hawfinch, Breeding season, Juvenile Plumage, Gunma Prefecture

#### はじめに

シメ *Coccothraustes coccothraustes* は北海道と本州北部で繁殖し、冬鳥として全国に渡来する (日本鳥学会, 2012)。群馬県では冬鳥であり、繁殖期の記録および繁殖記録はない (日本野鳥の会群馬, 2020)。筆者の石塚は、2021年8月7日に群馬県吾妻郡嬭恋村において、シメの家族群と思われる小群を観察し、全身幼羽の幼鳥を確認した。換羽前の全身幼羽であったこと、家族群が維持されていたと考えられることから、周辺で繁殖した可能性が高い。これが群馬県における本種の初めての繁殖に関する記録であると考えられるため報告する。

#### 観察記録および考察

2021年8月7日17:40頃、群馬県吾妻郡嬭恋村干俣の嬭恋牧場愛妻の鐘付近での鳥類観察中にシメの地鳴きに気付いた。周辺を探すと、本種の10羽以上の小群がおり、その中に少なくとも4羽の幼鳥が含まれていることが確認できたため、約20 mの距離からデジタルカメラ (FUJIFILM, FinePix HS50EXR) を用いて1000 mm相当で撮影した (図1)。観察地

の嬭恋牧場周辺は群馬県北西部に位置し、標高は約1,410 mである。牧場内は灌木が散在する放牧地であるが、シメが観察されたのは道路周辺で、樹高15 m前後のミズナラ *Quercus crispula* とシラカンバ *Betula platyphylla* が多く、カラマツ *Larix kaempferi* とアカマツ *Pinus densiflora* の混じる混交林であった。低木層は乏しく、林縁部にはリョウブ *Clethra barbinervis*、レンゲツツジ *Rhododendron japonicum*、ノリウツギ *Hydrangea paniculata*、ツルウメモドキ *Celastrus orbiculatus*、ススキ *Miscanthus sinensis* が多い。

幼鳥と判断した個体の頭部は鈍い黄褐色で、目先および喉には暗色の部分があったが、その境界は不明瞭であった。また、胸から腹部にかけての体羽は淡灰褐色の地に暗色の横斑が多数あった。嘴は暗色だが、基部は肉色を帯びた淡色であった (図1)。これらの特徴は、周囲にいた成鳥と明らかに異なっていた。発見後約10分間、観察と撮影をおこなったが、シメの小群が飛去したため見失った。

前述の羽衣は山階 (1934) の幼羽の記載と一致するため、これらの個体は幼羽の幼鳥であると判断した。観察中、シメは成鳥と幼鳥が行動をともにしており、家族群と考えられた。幼鳥が4羽以上いたが、本種の一腹卵数は4–6 (山階, 1934) ないし3–6 (清棲, 1978) であるため、繁殖に



図1. 観察されたシメの幼鳥。頭部の黄褐色と下面の横斑が特徴的な幼羽個体。

Fig. 1. Juveniles of Hawfinch. Juveniles with distinctive plumage such as yellow-brown head and horizontal spots on the underside.

成功した1家族とその他の成鳥であったのか、繁殖に成功した複数家族の合同群であったのかは不明である。本種の幼鳥は秋に体羽を換羽して第一回冬羽になり、成鳥と似た羽色になるが（山階，1934），観察した幼鳥が換羽前の全身幼羽であったこと，家族群が維持されていたと考えられることから，周辺で繁殖した可能性が高い。本種は群馬県内では繁殖期の記録がないため（日本野鳥の会群馬，2020），これが群馬県における本種の幼羽の個体を伴う初めての繁殖期の記録であると考えられる。この他，当地から直線距離で約5 km離れた嬭恋村干俣バラキ湖の北側（標高約1,270 m）で2021年6月17日，2023年6月27日と7月20日に，約13 km離れた嬭恋村鎌原の鬼押し出し園附近（標高約1,300 m）で2022年6月17日と2023年7月7日にも本種が観察または撮影されている（岡野・瀧川，私信）。また，長野県では霧ヶ峰高原の八島ヶ原湿原（標高約1,650 m）で2022年に繁殖が確認されていることから（西・米山，2023），近年，本州中部各地の高標高地で繁殖するようになった可能性も考えられる。従来冬鳥であった種が繁殖するようになった例は，ハクセキレイ *Motacilla alba lugens*（中村，2013）やジョウビタキ *Phoenicurus aureus*（山路ほか，2021）などでも知られているため，本種の今後の動向に注目したい。

## 謝辞

本稿作成にあたり，岡野弘行氏と瀧川二士男氏にはシメの観察・撮影記録をご教示いただいた。都留文科大学の西教生氏には文献の入手に便宜を図っていただいた。匿名の査読者の方には有益なコメントをいただいた。記して感謝申し上げる。

## 引用文献

- 清棲幸保(1978): 増補新訂版日本鳥類大図鑑I. 講談社, 東京, 444pp.  
 中村一恵(2013): 日本列島におけるセキレイ属近縁2種の分布変遷と種分化. 神奈川県立博物館研究報告(自然科学), 42: 71-90.  
 日本鳥学会(2012): 日本鳥類目録 改訂第7版. 日本鳥学会, 三田, 438pp.  
 日本野鳥の会群馬(2020): 群馬県鳥類目録 改訂版. 日本野鳥の会群馬, 高崎, 94pp.  
 西教生・米山富和(2023): 長野県からのシメの繁殖記録. 山階鳥学誌, 55: 22-26.  
 山路公紀・宝田延彦・石井華香(2021): ハヶ岳周辺と高山市におけるジョウビタキ *Phoenicurus aureus* の繁殖環境の選好性. 日本鳥学会誌, 70(2): 139-152.  
 山階芳麿(1934): 日本の鳥類と其生態. 梓書房, 東京, 489pp.